



平成 21 年度新事業創出・販路開拓ネットワーク整備・活用等事業

2009 年 10 月 14 日発行

展示会・見本市レポート第11号

発行：全国商工会連合会

編集：(財) 日本立地センター

協力：全国イノベーション推進機関ネットワーク

第36回国際福祉機器展H. C. R. 2009[上]

最新の福祉機器20,000点を総合展示

会 期	2009年9月29日(火)～10月1日(木)
会 場	東京ビッグサイト
主 催	全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会
後 援	厚生労働省、経済産業省、総務省、国土交通省、東京都、海外参加国大使館
協 賛	NHK厚生文化事業団、読売光と愛の事業団、毎日新聞東京社会事業団、産経新聞厚生文化事業団、日本経済新聞社、東京新聞、東京新聞社会事業団、朝日新聞厚生文化事業団、福祉新聞社、日本赤十字社、福祉医療機構、鉄道弘済会、東京都社会福祉協議会、全国心身障害児福祉財団、シルバーサービス振興会、日本障害者リハビリテーション協会 等
事 務 局	保健福祉広報協会(http://www.hcr.or.jp)
出展者数	491社(うち海外53社)
出 展 料	1小間(3m×3m)=315,000円(税別)
募集期間	2009年2月初め～2009年3月末日
来場者数	107,911人
出展業種	車いす、ベッド、浴槽、トイレ、自助具、福祉車両 等
来場者の職業	障害者・介護・高齢者福祉施設、病院、福祉機器メーカー関係者 等
次回開催予定	2010年9月29日(水)～10月1日(金) 東京ビッグサイト

発行：全国商工会連合会 企業支援部 市場開拓支援課 03-3503-1256

編集・問い合わせ：(財) 日本立地センター 新事業支援部 03-3518-8964

◆ 時流商流 ◆

中小福祉機器メーカーの出展目立つ

国内から438社・団体、海外から53社が出展した同展は、国内最大の福祉機器展として知られる。会場には車いす、ベッド、浴槽、トイレ、自助具から福祉車両まで、合計20,000点の福祉機器と製品が所狭しと並び、その機能性と斬新なデザインを競っていた。

福祉機器産業の特徴は、福祉車両や介護ロボットなど大手メーカーや先端技術メーカーとともに、車いす、各種の自助具などの分野を中心として、社会貢献意識の高い中小メーカーが多数参加していることである。

福祉機器産業の現状をみても、加速する高齢化社会にともなう介護者の確保あるいは障害者福祉施設、高齢者施設の充実などの社会的ニーズを背景として、市場も拡大しつつある。

来場者の多く集まる同展は、とくに露出する機会の少ない中小メーカーにとって、1年に1度の大きなPRの場となる。



福祉機器展はセミナーが情報の宝庫

福祉機器展は、会場を埋め尽くす展示物の一方で、その性格上、福祉に関するセミナーが充実していることも集客力を高める理由の一つとなっている。例えば、高齢者福祉関係の講座では、高齢者福祉施設における創意工夫の事例発表会。「床ずれの評価と対応」、高齢者の尊厳と共感を大切にする「バリデーション療法の実践」あるいは「高齢者世帯向けの手軽な日々の食事」など、様々なテーマが用意されている。

同じくセミナーの特別企画では、義手・義足、車いす、コミュニケーション装置をテーマの対象とした「福祉機器開発最前線」、ベッド・浴槽・トイレで移乗する際の「腰痛予防と福祉機器」など、福祉機器開発の現状と近未来を知る貴重な機会を提供している。

今回のレポートでは、出展者数が多いこと、多種多様なブースが会場を埋め尽くしていることを受け、できるだけ多くの企業のレポートを掲載するため、「ブース細見」を**上下2回**に分けた。

次頁からは、本展示会の中でもユニークな取り組みを行っている地域のブースを紹介する。

◆ ブース細見 ◆

障害者用スーツのイージーオーダーに進出

★出 展 目 的 : 販路開拓

★代表商品の価格 : 車いす利用者用スラックス「プリムラカラー」=12,600円(税別)

倉敷市の倉敷スクールタイガー縫製 (<http://www.primulacalla.com>) は2年前、障害者向けのズボン、スカート、スーツ、ジャケットのイージーオーダーメイドを手掛けた縫製会社である。

主力事業は学生服の製造だが、障害者の求めに応じてズボンとスカートの注文を受け付けてきた。顧客の障害者の人たちが社会人となり、スーツの注文が増えてきたことを契機に、事業として本格的に取り組むようになったという。

「プリムラカラー」の商品名で電話とネットで注文を受け付ける営業方法を採用。全国に市場を広げようと、2度目の出展をした。



展示会で実演し認知度高める

★出 展 目 的 : PR

★代表商品の価格 : 視覚障害者歩行誘導ソフトマット「歩導くん」(センター・スタンダードタイプ)=8,700円(税別)

島根県松江市のトーフ (<http://www.mable.ne.jp/~towa/>) の杉原昇専務取締役が会場で実演しながら説明していた商品は、2005年に発売した視覚障害者歩行誘導ソフトマット「歩導くん」。

電気工事会社を経営していた同社の杉原司郎会長は10年前に視覚障害者となり、通院を余儀なくされていた。そんなある日、病院内の通路の角を不自由なく曲がることのできないものかと試行錯誤を繰り返し、凹凸のある点字ブロックと機能の異なる歩行誘導ソフトマットの開発に結びついた。20社の代理店を通じて全国で販売中。展示会にはこれまで4回出展、認知度向上に役立てている。

工業用ブラシのノウハウで介護用ブラシ商品化

★出 展 目 的 :PR

★代表商品の価格 :介護用ブラシ「Qクリーン」=1,800円(税別)

東京・文京区の工業用ブラシメーカー、高島産業 (<http://www.ts-brush.co.jp>) が出展した商品とは、新開発した介護用ブラシの「Qクリーン」。

工業用ブラシの製造で培ったブラシのノウハウを活かそうと、商品開発の発想を変えて、工場のある山形県で産学官連携による研究開発で2年前に商品化に成功。介護者が使い易いように口腔内で毛先の向きを変えずに、口の中を清掃できる円筒形のブラシとなっている。

口腔内の掻き取った食べカスなどは、ブラシとチューブでつないだ吸引装置で吸引する仕組み。総代理店方式で販売。初めての出展で同社庄内第一工場の営業部次長は「商品を見ていただくことが大切と考え出展しました」と話している。



セミナー行脚一段落し全国販売へ

★出 展 目 的 :販路開拓

★ 代表商品の価格 :「CBブレース変型性膝関節症用」(片方・180g)
=約60,000円(税別)

沖縄県宜野湾市の佐喜眞義肢 (<http://www.cb-sakima.jp>) が出展した変型性膝関節症用装具「CBブレース」はテレビでも紹介され、高い知名度を誇る。2005年8月に第1回「ものづくり大賞」の経済産業大臣賞に輝いている。

そんな同社が出展したのは、本格的に全国で販売するためだ。マスコミが取り上げたことで話題が先行し、商品そのものの優れた機能や、装具を使用する際のスムーズな装着方法などの説明が後回しになっていると判断。2年前から開発者である佐喜眞保代表取締役自ら全国各地でセミナーを開催、普及に努めてきた。

このセミナー行脚が一段落したのを機に、現在営業活動を行なっている沖縄と札幌に続き、全国に販売先を広げることにしたという。